

防災通信

— 防災気象情報の変更 —

松原第6町会 2022年 6月 1日

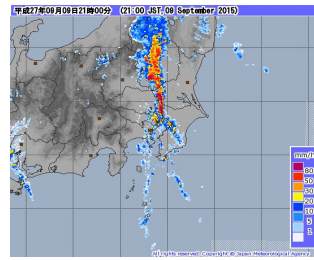
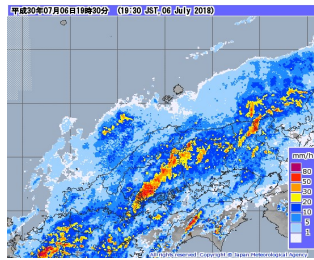
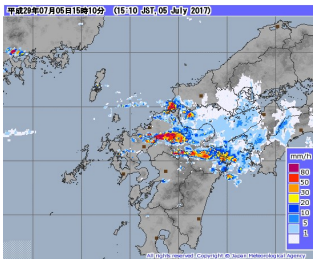
松原第6町会防災アドバイザー 黒澤

本年度も防災通信を通じて、町会員の皆様に情報提供をしてまいります。
 自然災害は国内どの地域でも恐れがあります。災害への自己防備、隣近所の共助や
 町会組織をはじめとする公助などによって、被害を最小限にしていきたいと思ひます。
 今回は今年の6月から順次改善される防災気象情報について、お知らせします。

【線状降水帯予測 6月 1日から】

線状降水帯とは、積乱雲(発達した雨雲)が、線状に次々に発生して、ほぼ同じ場所を
 通過・停滞することで作り出される、非常に強い雨のエリアです。近年では、

- ・令和2年7月豪雨 2020年7月3日から7月31日
九州の熊本県の球磨川が決壊・氾濫した災害、線状降水帯が13回発生
- ・平成30年7月豪雨(西日本豪雨) 2018年6月28日から7月8日
広島県で真砂土(花崗岩の風化したもの)土砂崩れや、岡山県倉敷市真備町の
河川氾濫をはじめ、九州北部から岐阜県にかけ、線状降水帯が68回発生
- ・平成27年9月関東・東北豪雨 2015年9月9日から11日
鬼怒川の数か所で越水や堤防漏水が発生し、堤防も決壊
台風第18号や台風第17号の影響により、線状降水帯が継続して発生



【河川氾濫危険情報の発表 6月13日から】

中信の指定河川である犀川・奈良井川・天竜川・諏訪湖・木曾川などの
 氾濫しそうな危険レベルを、今までは実際の水面や降水量から発表していましたが、
 6月13日からは、気象予報を取り入れた予測に基づいても発表するようになります。

【キキクル(危険度分布)の表示変更 6月30日から】

迫る災害を一日で確認できる、キキクル(危険度分布)に、災害切迫の
 「黒」エリアを新設します。大雨特別警報(浸水害)の指標もキキクルに連動します。

今回は、水害に関するもので、気象庁や国土交通省の考え方として「空振り」
 「予測外れ」を恐れず、警報・注意報を出して人命を第一に護ろう、という考え方に
 基づく変更です。当町会ではあまり影響はありませんが、お勤め・通学・買い物などで
 対象地域へ外出している方々も多いと思ひます。よく行く出先近辺のハザードマップを
 ご確認いただき、出先で災害にあったらどうするか、という推測をしておきましょう。

出典 国土交通省 今出水期から行う防災気象情報の伝え方の改善について 令和4年5月18日発表
 気象庁 キキクル →

